

# ミシガン大学アナーバー校 アフロアメリカン&アフリカン研究センター滞在記

藤永 康政

2008年9月からの1年間、わたしは、ミシガン大学アナーバー校アフロアメリカン&アフリカン研究所 (Center for Afroamerican and African Studies, CAAS) でフルブライト客員研究員としての生活を送った。そのうち、大学の環境や周囲のコミュニティについては、大統領選挙をめぐるいくつかのエピソードを交えながらこのニュースレター第10号に記しているがゆえに、今回は大学や研究センター、ならび附属図書館や文書館について報告してみたい。

ミシガン大学は1817年にデトロイトで創設された。当時はまだ自動車産業興隆のはるか前、デトロイトは英領カナダに面した北西部領土の「辺境の地」。州立大学である同大学は、奇妙なことではあるが、1837年に州としてアメリカ合衆国の一員になるミシガン州それ自体よりも、20歳「年上」ということになる。その後、ミシガン州の設立と同年にデトロイトから西に80マイルほどのところに位置する街、アナーバーに移転し、現在では、教員数約6,200名、学部学生数約41,600名、大学院生数約26,000名、さらにはフェロー／研究員数約15,000名を数え、全米を代表する州立大学となっている。アナーバー市の人口総数が約11万人であることを考えると、同市における大学のプレゼンスは極めて大きい。その実、市の活動は大学のそれとの連携・協同が



写真1 ミシガン・ユニオン (学生会館)

緊密になされていて、勉学環境も住環境もきわめて優れたところであった。

その大学の総合研究所のひとつであるアフロアメリカン&アフリカン研究所にわたしが所属した2008-2009アメリカ学制度年度で、同研究所には、39名の教授、7名の准教授、10名の助教ならびに助手を抱えており、ひろくブラック・スタディーズと定義され得る領域を専門とする研究所のなかでは全米でも最大級のものになっている (同研究所の沿革や授業の特質についての詳細はニュースレター第10号を参照)。

今回のわたしの滞在の目的は、最新のアメリカ黒人研究に触れあうことで研究者としての感性を磨くことと、日本では簡単に読むことのできない史料をなるべく多く読む、深く分析することにあつた。そのようななか、CAASとともにわたしの生活の中心に

なったのが、ハーラン・ハッチャー大学院図書館（Harlan Hatcher Graduate Library）とその特別コレクション部局であるラバディー特別コレクション図書室（Labadie Special Collection）、ベントレー歴史図書館（Bentley Historical Library）である。

これらすべての図書館が優れたコレクションを誇っていることは言うまでもないが、わたしが驚いたのは、デジタル化技術の想像以上の進展ぶりであり、それは「研究の質」の変化を必定のものとすると考えられる。もとよりミシガン大学は1995年に人社系学術雑誌のデータベースとして創設されたJSTORの拠点であったし、今回わたしが滞在していたときには、Google社と協同で同大学図書館内の前書籍をデジタル化している最中であった。さらに、同大学図書館が提携しているデータベースのなかには、黒人向け新聞有力数紙をすでに完全にデジタル化したものがあった。従来、新聞記事に当たるということは、近現代史研究家にとって研究開始すぐに行う基礎的でありかつ極めて大切な作業であった。しかし、もはやある特定の記事を読むために、読むことすら困難なマイクロフィルムに長時

間向かい合う必要はない。少なくともわたしが興味をもつ分野において、新聞の記事をソースとするリサーチ作業は、「デスクトップ」の上で簡単に済んでしまうものになっている。リサーチの主眼は、いまやはっきりと文書manuscriptの方に移っている。

外国の歴史を研究しているものを常に悩ませていた問題は、「史料の在処が遠い」ということであった。デジタル・データベースは、そこへのアクセス権や課金の面で多くの問題を抱えている。極端な話、資力に余裕のある研究機関が高度なデータベースへのアクセス権を持つことで高い研究を維持し、そうできない機関では初歩的研究ですら苦心しなくてはならないという事態にもなりかねない。そのような側面を考慮しても、わたしはこのような技術的革新に大きな期待をせずにいられない。なぜならば、史料へのアクセスが平均化されたときの研究に問われるものとは、そのオリジナリティや分析の深度など、本来研究に問われるべき問題に限定されてくるであろうし、そうなったときにもたらされる研究そして研究者への恩恵ははかり知れないと思われるからだ。



写真2 大学図書館 リーディング・ルーム